

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：12603  
 研究種目：基盤研究(B) (一般)  
 研究期間：2014～2019  
 課題番号：26284092  
 研究課題名(和文) 日本近世山里社会の存立条件に関する基盤的研究

研究課題名(英文) Study

研究代表者

吉田 ゆり子 (Yoshida, Yuriko)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：50196888

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、山里という場の社会構造を、モノと社会集団の局面から見直し、(1)5つの地域(A遠山、B大河原・鹿塩、C飯田・上飯田、D和合・浪合・平谷、E清内路)を素材とした山里社会の歴史的特質の解明、(2)歴史資料の調査・保存、地域市民への成果の還元、歴史遺産に対する意識の啓発活動、という2つを主要な柱として共同研究を推進し、研究成果を市民講座の形で還元した。また、山里社会の歴史意識をよく示す『熊谷家伝記』のうち、これまで活用されていなかった良質な宮下本を翻刻・編纂し、その史料的価値を解説した解説を付して刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、飯田・下伊那の学術研究拠点である飯田市歴史研究所との連携により、山里社会と周辺の社会や城下町飯田、江戸等を含む遠隔地との有機的な結合、労働力循環構造に、山里社会の歴史的特質を解明すること、モノと社会集団という二つの局面から山里社会の歴史個性を具体的に明らかにしたこと、歴史資料を主要素材とし、景観や建造物など歴史遺産の保存・活用に対する住民意識を育み、成果を地域市民に開示し、知見を共有してゆく中で、歴史遺産を活用し地域の活性化につなげる施策を地域市民とともに再考してゆくための学術的寄与を行なうことができたことに、学術的・社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：In this project, we have reviewed the social structure of a locality called Yamazato from its materiality and social group aspects. The collective research has been conducted based on two main pillars: first, shedding light on the historical particularities of five regions of the Yamazato society - Toyama; Ogawara and Kashio; Iida and Kami-Iida; Wago, Namiai, and Hiraya; and Seinaiji. Second, a focus in the archival investigation and preservation of historical documents while returning to the local population the results through activities such as classes based on our findings. The purpose was to bolster the awareness of local residents regarding historical properties. Also, we have edited an annotated transcription of the Miyashita copy (Miyashitabon) of the Kumagai Kadenki, a high-quality yet little used version of a very representative chronicle of the historical awareness of the Yamazato society. It included an appendix explaining the document's historical value.

研究分野：日本近世史

キーワード：山里 南信濃 森林資源 地域社会 社会集団 家 景観 町並み

# 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

日本は、国土の7割近くが山と森林に覆われている。近世に存在した63,000の村の内、山間部村落、すなわち山里はかなりの比重を占めてきた。また、平野部の村落における農業や、城下町等の都市基盤の整備や維持にとって、山林や、これとともにある山里は、それらの再生間にとって不可欠な条件を構成した。これまでの日本近世における山里社会に関する研究は、木曾や飛騨、秋田等を対象とする森林資源の研究、山林乱伐に対する森林保全の観点からの環境史等、農業生産活動に不可欠な山利用(入会地等)の研究が主流であった。

## 2. 研究の目的

本研究は、こうした山里という場の社会構造を、モノと社会集団という二つの局面から精緻に解明するとともに、その存立条件として、幕府や藩による山林経営による山里および周辺地域に対する多用な雇用創出、材木伐り出しを請け負う江戸商人や土豪層の関与、現金収入による伊那特有な御館・被官関係の解体、山里における米穀・塩など必需品の流通を契機とする都市・農村の有機的結合、杣・日用など山林労働を担う人々の広域的な労働力循環構造の形成などに注目する。そして、森林資源をめぐる地域社会＝山里の構造と、幕府・藩による山林経営、および都市材木問屋を介しての全国的な材木需要の動向との関連性・影響を考察しようとしたものである。

## 3. 研究の方法

本研究では、(1)5つの地域を素材とした山里社会の歴史的特質の解明、(2)歴史資料の調査・保存、地域市民への成果の還元、歴史遺産に対する意識の啓発活動、という2つを主要な柱とした。

### (1)山里社会の歴史的特質の解明

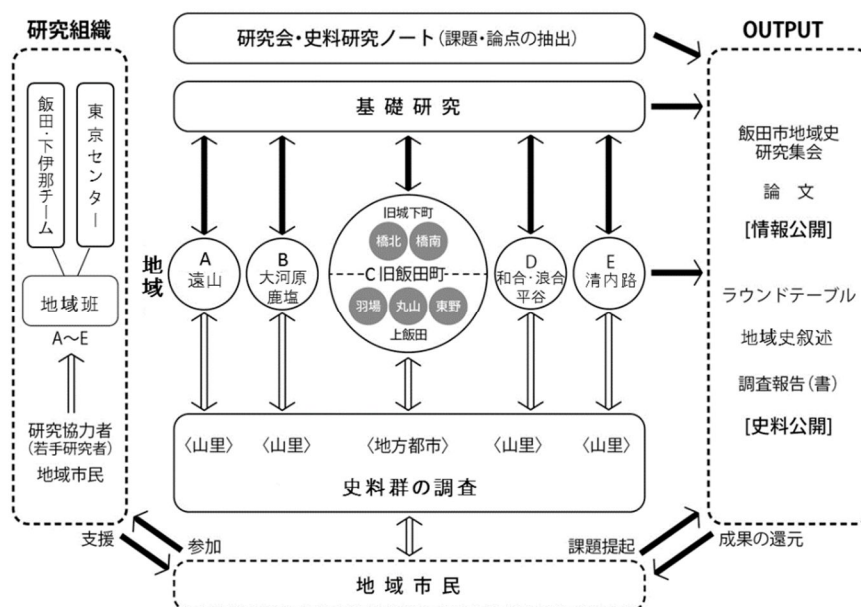
森林資源と地域の人々の営みとが密接不可分に進行してきた山里社会の歴史課程を、当該社会に特質的なモノと社会集団という二つの局面から検討し、地域社会像を解明する。モノについて、樽木・材木・板子、薪炭、刈藪、木地、筏など、社会集団については、御館・被官、山師(木師)、筏師、舟人、薪炭商人・問屋、木地師等を取り上げる。素材とする5つの地域とは、A遠山、B大河原・鹿塩、C飯田・上飯田、D和合・浪合・平谷、E清内路、である。

### (2)成果の公表と市民への還元、歴史遺産の保存・活用への意識の啓発活動

AからEの5つの地域ごとに、未整理史料の現状記録調査や写真撮影による史料収集を行い、調査報告書などの成果物を作成する。また、それぞれの史料群について保存措置を講じ、公開の環境を整える。市民講座を通して、成果を地域にも還元し、歴史資料とともに当該地域における歴史的建造物や歴史的景観の保全や活用などについて、市民や地域自治体の意識を高める活動を行う。

### (3)研究組織と体制

本研究では、素材とする5つの地域の学術研究拠点である飯田市歴史研究所と、当該地域を研究対象とする研究者との共同研究体制をとり、地域市民と密接に連携しながら調査研究を遂行することが重要である。そのために、東京センター(東京外国語大学)と飯田・下伊那チームを置き、在首都圏の研究者と在飯田・下伊那居住の研究者との連携をはかり、ともに公開のワークショップや市民講座を企画・運営することを企図した。



#### 4. 研究成果

本研究の成果を、4つの柱にわけて整理すると、以下の通りである。

##### (1) 5つの地域の史料調査と収集

###### [ A 遠山 ]

木曽の檜に対して、榎材の樽木の産地として、16世紀末から徳川家康により注目され、江戸や駿府などの城や城下町、橋普請や屋根材を産出したのが、遠山である。従来、徳川林制史研究所を始めとする木曽の研究は進んでいたが、遠山の森林資源の活用にかかる歴史学からの研究は、ほとんどなされていなかった。そこで、本研究事業の初年度から、遠山和田の中核的史料群である佐藤家文書の調査を開始するとともに、並行して、木沢地区(遠山川への渡入地点)の文書の所在調査と、上村地区の下栗集落の文書調査も実施した。佐藤家文書は、35の容器に1万点近く収納された文書群で、いまだ悉皆的に写真撮影による収集を終了していない。王子製紙関係の史料収集を本格的に実施することが課題として残された。また、文書調査とともに建造物調査も行ったが、未調査の建造物や、町並みや集落景観の調査が、今後の課題である。

さらに、遠山川から天竜川に至る口留番所として、梁木島番所と満嶋番所の文書の所在について確認し、満嶋番所については、写真撮影による収集を行った。両番所ともに、建造物についても歴史的価値が高いことを確認した。

###### [ B 大河原・鹿塩 ]

大河原の前島家文書については写真撮影による収集をすでに行っていることから、あわせて領主側の史料として代官千村平右衛門代官所文書(大久保文書)の閲覧と収集を開始した。大久保文書はきわめて良質な史料群であるが、目録番号と史料番号の齟齬などを確認・修正しながら、用いた。

###### [ C 飯田・上飯田 ]

森林組合の史料群や野底入会関係史料等を閲覧・入手し、分析に役立てた。すでに、飯田市歴史研究所が収集している史料群を活用することができた。また、飯田城下の商人を介した山里との物流のネットワークが、山里側の史料から散見できることがわかり、個別の商家文書の所在確認を行うこととしている。

###### [ D 和合・浪合・平谷 ]

これまで知られてきた佐藤家に伝来した『熊谷家伝記』のもととなった和合村宮下家に所蔵される『熊谷家伝記』(宮下本)の史料翻刻・校訂作業を進め、史料集として刊行し、あわせて、広く市民にもその史料的価値を伝えるために講演した。

浪合村千葉家文書の悉皆的な目録作成と情報整備を行った。千葉家文書が、歴史資料として長野県宝に指定されたことから、その史料的価値を記念講演会において市民に伝えた。

これを契機に、2019年3月に、中馬街道浪合宿で問屋を営んだ増田家文書と出会うことができ、調査を開始し物流の結節点としての浪合の位置を解明することが可能となった。

###### [ E 清内路 ]

予定した土佐屋文書と松屋文書の調査を行い、さらに綿屋文書、桜井正彦家文書等の他、小野川耕地惣代文書の調査も行い、写真撮影による史料収集につとめ、分析を進めている。調査報告書として、『清内路 - 歴史と文化調査研究報告集』が出されている。

##### (2) 研究成果

###### 山里社会の歴史的変遷に関する研究報告

遠山地区の史料調査成果を受け、2015年9月5日に飯田市歴史研究所で実施された研究集会(さんとびあ飯田勤労者福祉センター3階研修室)において、「飯田・下伊那の歴史的景観」と題するセッションを設け、遠山和田・木沢・下栗の歴史的景観を継承し活用することの意義について問題提起を行い、飯田市内の座光寺地区の実践例や重要文化的景観に指定された長野県小菅地区の事例の紹介と、住民の活動について考える機会をもった。

本研究課題の成果を報告とする場として、2018年8月25日に飯田市歴史研究所の研究集会「近世初期の城下町建設と伊那の材木」(吉田ゆり子・研究代表者)、コメント多和田雅保(研究分担者)、「17世紀の樽木役の変質 - 脇坂飯田藩の樽木米を中心に - 」(前澤健・研究協力者)、コメント羽田真也(研究分担者)や清内路を素材とする研究報告がなされた。

###### 山里社会と外部世界とのモノと人の循環構造に関する研究

遠山和田の集落に、小川路峠を越えて飯田城下からモノと人が行き来すること、南の遠州からもモノの移入がみられることを、遠山和田佐藤家文書の大正期の大幅帳から丹念に分析した論考が多和田雅保(研究分担者)公表された。

下栗の文書調査と聞き取り作業によっても、同様の結節点となる文書史料が発掘されており、さらに研究の深化が期待される。

###### 山里社会に生きた人々の意識

2016年5月15日に、フランスから社会科学高等研究院エリ・アダッド氏を招待し、「近世身分社会と『家』」と題する日仏国際研究集会を日仏会館501号会議室で開催した。そこでは、エ

ダッド氏による「近世フランス社会における『家』」に対して、吉田ゆり子が「『家』の歴史意識 - 山里に遺された家伝記と遺言書を素材として - 」という報告を行い、下伊那の中山村山中家文書に遺された子孫に向けた遺言書と、坂部村熊谷家の家伝記(『熊谷家伝記』)を素材とした報告を行い、山里を開発し定住した郷主が兵農分離を経て、百姓身分として近世社会を生きる葛藤を分析した。

#### 清内路研究

清内路の内部に、それぞれ特性の異なる上清内路と下清内路という二つの地域を有する広大な村域に遺された近世から現代に至る史料群の調査を、年間二～四度、定期的に行い、共同研究の成果の一端を、吉田伸之編『山里清内路の社会構造 - 近世から現代へ - 』(山川出版社・2018年9月)にまとめた。さらに、継続的に調査と研究会活動を行うとともに、地域史講座を開催、2019年度からは市民向けに古文書講座を置いて、地域の歴史資料から明らかになる歴史的事実を解説する活動もはじめた。

#### (3)市民への還元、意識の啓発活動

2015年12月20日に、遠山和田の自治振興センターにおいて、「遠山の歴史を学ぶ会」を開催し、佐藤家文書の紹介とその調査過程の説明、さらに文書史料から判明する遠山の歴史を市民に伝え、史料保存の大切さと町並みの保全に対する意識啓発を行った。報告は、「大正期遠山地域の物流」(多和田雅保)、「遠山地域の村の成立過程」(吉田ゆり子)。

2016年8月13日に、和合の念仏踊りが行われる当日に、和合(現、阿南町)の住民に向けて、「『熊谷家伝記』をめぐる『家』の存続と『武士への憧れ』のはざま - 」(吉田ゆり子)と題する講演を行い、宮下家に伝わる『熊谷家伝記』の歴史的価値について説明をした。

2016年11月21日に、飯田市歴史研究所主催地域史講座において「飯田城と丘の上の景観 - 樹木と都市の暮らしに注目して - 」(吉田ゆり子)と題する講演を行い、飯田城と城下町に計画的に植樹されていた樹木の役割と人々の暮らしとの関係性について述べ、樹木のある景観の意義について啓発を行った。

2019年3月9日には、「千葉家文書に学ぶ地域の歴史」(吉田ゆり子)と題する講演を、浪合(現、阿智村)において市民向けに行い、千葉家文書からわかる浪合の近世の姿と、文書史料の保全の重要性について解説した。

#### (4)今後の課題と研究の継承・発展へ

本研究事業は、当初の予定である5年間で6年に延長した。しかし、採訪した史料を研究に利用するまでの調査作業と、調査した史料の価値を広く地域市民に伝え、保全することの必要性を説いてゆくの、多くの時間を必要とした。具体的には、文書等の歴史資料を発掘し、これを活用するために、史料調査・目録作成を行い、保全措置を行った上で、写真撮影による史料収集を行うことが必要である。戦後の農村調査の時代に発掘された史料群は、先人により作成された目録が遺されている場合も、封筒などに入れられずに現在では、原史料と目録の対照が難しいことがある。また、悉皆的に調査されず、主要な史料のみ抜き取り的に使用され、多くの部分が未整理の状態に土蔵に放置されるなどしている。そうした史料を、将来に継承されるように保全措置をとりつつ、研究に利用するという地道な活動の中で成果を出してきている。

しかし、共同研究者の研究成果を論文集として公刊する作業は、現在も継続中で、近い将来に刊行することが課題として残された。

幸いにも、本研究事業を継承・発展する形で、基盤研究A「南信濃山里社会の文化的景観とその歴史的形成過程に関する基盤的研究」(代表吉田ゆり子)が2020年度から4年間の事業として採択された。そこでは、南信濃地域が伊奈山(遠山)をめぐる有機的な関係をもつ地域社会を形成し、江戸、名古屋、上方など外部世界と結びつきながら固有の社会構造を形成してきたことを多面的かつ段階的に解明すること、あわせて、地域の歴史や個性が今日の文化的景観に具現していることを明らかにし、これらを継承することが地域市民にとってかけがえのない価値であることを示し、地域が持続する上での手がかりを提供すること、を継続したい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 多和田雅保	4. 巻 825
2. 論文標題 町人地と山林利益権	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 38-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 多和田雅保	4. 巻 16
2. 論文標題 対話を通じて地域を描く 飯田での経験から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 飯田市歴史研究所年報	6. 最初と最後の頁 8-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 多和田雅保	4. 巻 15
2. 論文標題 遠山和田町の萬屋経営史料とはがき群について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 飯田市歴史研究所年報	6. 最初と最後の頁 122-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 羽田 真也	4. 巻 230
2. 論文標題 水利秩序から地域社会を考える	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史科学	6. 最初と最後の頁 39～55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 羽田 真也	4. 巻 27
2. 論文標題 元禄四年の寺社改と村の寺	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 和泉市史紀要	6. 最初と最後の頁 28～51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千葉拓真	4. 巻 15
2. 論文標題 近世後期の飯田藩政	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 飯田市歴史研究所年報	6. 最初と最後の頁 8-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田ゆり子	4. 巻 14
2. 論文標題 伊那谷の村と人形浄瑠璃	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 飯田市歴史研究所紀要	6. 最初と最後の頁 149～157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田伸之	4. 巻 3
2. 論文標題 「御城米」と江戸の湊	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 82～91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 羽田真也	4. 巻 10
2. 論文標題 地域史研究と地域づくり	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 年報 香寺町の歴史	6. 最初と最後の頁 1~6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田伸之	4. 巻 28
2. 論文標題 下総と江戸を結ぶー利根川・江戸川水系の舟運と薪	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 鎌ヶ谷市史研究	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田伸之	4. 巻 18
2. 論文標題 江戸と薪ー巨大城下町の燃料エネルギー問題	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 市大日本史	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田伸之	4. 巻 23
2. 論文標題 江戸の飴屋・飴売り	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 和菓子	6. 最初と最後の頁 7-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千葉拓真	4. 巻 13
2. 論文標題 飯田市江戸町 福沢洋治氏所蔵文書 附目録	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 飯田市歴史研究所年報	6. 最初と最後の頁 156-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千葉拓真	4. 巻 14
2. 論文標題 近世における堀家墓所の成立と飯田藩政	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 飯田市歴史研究所年報	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千葉拓真	4. 巻 14
2. 論文標題 一七世紀後半における飯田藩と信濃衆 「飯田御用覚書」の分析から	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 飯田市歴史研究所年報	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 多和田雅保	4. 巻 2
2. 論文標題 十八世紀前半期における市町の展開 信州小布施	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 24-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 吉田ゆり子	4. 巻 1084
2. 論文標題 「彫」	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 64-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹ノ内雅人	4. 巻 2
2. 論文標題 『ええじゃないか』と銭佐	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 『両替商 銭屋佐兵衛』	6. 最初と最後の頁 49-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千葉拓真	4. 巻 12
2. 論文標題 一七世紀における飯田藩と京都	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 飯田市歴史研究所年報	6. 最初と最後の頁 159-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田伸之	4. 巻 1084
2. 論文標題 髪結の職分と所有	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 29-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田伸之	4. 巻 926
2. 論文標題 遊廓社会論の射程	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 25-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田伸之	4. 巻 13
2. 論文標題 能真坊野と平川村	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 千葉いまむかし	6. 最初と最後の頁 13-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計43件 (うち招待講演 11件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 吉田ゆり子
2. 発表標題 近世初期の城・城下町建設と遠山の森林資源
3. 学会等名 第16回 飯田市地域史研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田伸之
2. 発表標題 町奉行所市中取締掛と幕末期の江戸社会
3. 学会等名 上海社会科学院歴史研究所 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 樋口貴彦・青柳由佳
2. 発表標題 木曽谷における民家と付属屋の構法と木材利用(その1)
3. 学会等名 日本建築学会大会(東北)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 青柳由佳・樋口貴彦
2. 発表標題 木曽谷における民家と付属屋の構法と木材利用(その1)
3. 学会等名 日本建築学会大会(東北)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 樋口貴彦・臼井啓太郎・八木健太郎
2. 発表標題 BUILDING DIGNITY 旧飯田測候所
3. 学会等名 日本建築学会大会(東北)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 羽田真也
2. 発表標題 信州伊那郡座光寺村の組について
3. 学会等名 大阪近世史の会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 樋口貴彦
2. 発表標題 山村集落の家屋と屋敷まわりにおける木材利用の方法 遠山谷下栗集落を事例として
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 多和田雅保
2. 発表標題 対話を通じて地域を描く 飯田での経験から
3. 学会等名 飯田市地域史研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 羽田真也
2. 発表標題 信州伊那郡座光寺村の社会構造 文化期の村方騒動を手がかりに
3. 学会等名 関西学院大学近世史研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 羽田真也
2. 発表標題 近世の郷蔵普請について 座光寺村の事例から
3. 学会等名 飯田市歴史研究所ワークショップ
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 羽田真也
2. 発表標題 座光寺村の社会構造 文化期の村方騒動を手がかりに
3. 学会等名 飯田市歴史研究所定例研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田ゆり子
2. 発表標題 日本の都市と樹木
3. 学会等名 “ The Meiji Restoration and its Afterlives: Social Change, Spatial Transformations and the Politics of Commemoration ” Yale University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田伸之
2. 発表標題 Modernizing the Shoreline: The Case of the Outskirts of Edo(Tokyo)
3. 学会等名 “ The Meiji Restoration and its Afterlives: Social Change, Spatial Transformations and the Politics of Commemoration ” Yale University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田ゆり子
2. 発表標題 武家女性と財産分与
3. 学会等名 日仏二国間セミナー身分制社会における身分と周縁-16~19世紀における日本とフランス- (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田ゆり子
2. 発表標題 馬医下家と馬市
3. 学会等名 府中市史編纂市民講演会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田ゆり子
2. 発表標題 日本近世における「家」の歴史意識 : ;山里に遺された家伝記と遺言状を素材として
3. 学会等名 日仏国際研究集会「都市・家・身分－日仏近世史の交差へ－」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 竹ノ内雅人
2. 発表標題 近世における飯田の学問と文化
3. 学会等名 飯田市歴史研究所研究集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉田ゆり子
2. 発表標題 飯田城と丘の上の景観－樹木と都市の暮らしに注目して－
3. 学会等名 飯田市歴史研究所地域史講座
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉田伸之
2. 発表標題 "The social=spatial structure of the chonin districts of Edo and the topology of plebeian lifeworlds"
3. 学会等名 Council on East Asian Studies (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takahiko Higuchi, Silvan Blumenthal
2. 発表標題 Continued use of Logs in the Construction of Wooden Houses in Mountain Regions of Switzerland
3. 学会等名 World Conference on Timber Engineering
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 羽田真也
2. 発表標題 水利秩序から地域社会を考える
3. 学会等名 大阪歴史科学協議会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 羽田真也
2. 発表標題 飯田・下伊那の村社会研究に向けて 座光寺村を対象に
3. 学会等名 飯田市歴史研究所研究集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 羽田真也
2. 発表標題 17世紀の山の用益と飯田藩 座光寺村を事例として
3. 学会等名 飯田市歴史研究所ワークショップ「飯田・下伊那の領主たちと地域社会」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 千葉拓真
2. 発表標題 近世後期における飯田藩政 その展開と課題
3. 学会等名 飯田市歴史研究所研究集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 千葉拓真
2. 発表標題 生類憐みの令をめぐる飯田藩と村々
3. 学会等名 飯田市歴史研究所ワークショップ「飯田・下伊那の領主たちと地域社会」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 多和田雅保
2. 発表標題 南信の人びとの暮らしをささえた物流 南信濃からみた遠江・三河
3. 学会等名 第二回愛知大学地域研究機構シンポジウム「交流の歴史からみる三河・遠江・南信濃」(招待講演)
4. 発表年 2016年



1. 発表者名 吉田ゆり子
2. 発表標題 京都の非人-「坂」から「悲田院」へ-
3. 学会等名 京都部落問題研究所
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Takahiko Higuchi
2. 発表標題 "possibility of Conducting Research on Wooden Architecture between Switzerland and Japan"
3. 学会等名 Tsukuba Global Science Week
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 千葉拓真
2. 発表標題 宝暦-天明期から寛政期における交代寄合信濃衆
3. 学会等名 名古屋大学近世史研究会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 千葉拓真
2. 発表標題 17世紀後半におけ飯田藩と信濃衆
3. 学会等名 飯田市歴史研究所ワークショップ
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 多和田雅保
2. 発表標題 神奈川地域資料保全ネットワークの方向性について
3. 学会等名 第2回全国史料ネット研究交流集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 竹ノ内雅人
2. 発表標題 近世後期南信山間地域と流通
3. 学会等名 近世史研究会
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 千葉拓真
2. 発表標題 幕府役職への就任における職務情報の授受と「両敬」
3. 学会等名 日本古文書学会大会報告
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 千葉拓真
2. 発表標題 近世大名家における交際とその特質 信州飯田藩主堀家を事例に
3. 学会等名 近世史研究会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 吉田伸之
2. 発表標題 Society and a Series of Disputes over the Commodity known as Motoyui(Paper Hair Ties)
3. 学会等名 リール第二大学司法史研究センターCHJ主催コローク「紛争の解決と管理」(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 吉田ゆり子
2. 発表標題 近世農村の古文書
3. 学会等名 茅野市八ヶ岳総合博物館主催(招待講演)
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 吉田ゆり子
2. 発表標題 近世の村と町 伝建地区の歴史的評価をめくって
3. 学会等名 文化庁文化財部参事官室主催伝統的建造物群保護行政研修会(招待講演)
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 吉田ゆり子
2. 発表標題 伊那谷の村と人形浄瑠璃
3. 学会等名 飯田市歴史研究所・飯田市美術博物館共催(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 多和田雅保
2. 発表標題 ギョーム・カレ『歴史の比較・アプローチの交差・概念の再検討』を読んで
3. 学会等名 飯田市歴史研究所
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 羽田真也
2. 発表標題 近世座光寺村如来寺の出開帳と請負人
3. 学会等名 飯田市歴史研究序定例研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 多和田雅保
2. 発表標題 神奈川における地域資料保全をめぐる連携について
3. 学会等名 歴史文化資料保全首都圏大学協議会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉田伸之
2. 発表標題 山里清内路の昔と今を考える
3. 学会等名 合併10周年記念「清内路の未来を語る会」(招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計26件

1. 著者名 吉田伸之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 382
3. 書名 山里清内路の社会構造	

1. 著者名 吉田伸之他編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 210
3. 書名 「明治一五〇年」で考える	

1. 著者名 樋口貴彦他編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 飯田市歴史研究所	5. 総ページ数 50
3. 書名 伊那谷の暮らしと住まい	

1. 著者名 樋口貴彦他編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 飯田市歴史研究所	5. 総ページ数 205
3. 書名 飯田・下伊那の歴史と景観	

1. 著者名 吉田ゆり子共著(井奥成彦・谷本雅之編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 445 (219-272)
3. 書名 豪農たちの近世近代	

1. 著者名 吉田ゆり子共著(吉田伸之他編著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 210 (151-167)
3. 書名 「明治一五〇年」で考える	

1. 著者名 吉田伸之(高埜利彦共著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 224
3. 書名 日本近世史研究と歴史教育	

1. 著者名 竹ノ内雅人	4. 発行年 2016年
2. 出版社 校倉書房	5. 総ページ数 278
3. 書名 江戸の神社と都市社会	

1. 著者名 吉田伸之・後藤雅知	4. 発行年 2016年
2. 出版社 侖書房	5. 総ページ数 260
3. 書名 古文書でよむ 千葉市の今むかし	

1. 著者名 吉田ゆり子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 332
3. 書名 日本近世の家と女性	

1. 著者名 吉田ゆり子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 294(185-212)
3. 書名 大学の日本史	

1. 著者名 樋口貴彦	4. 発行年 2015年
2. 出版社 鹿島出版社	5. 総ページ数 96-96
3. 書名 SDレビュー	

1. 著者名 竹ノ内雅人	4. 発行年 2016年
2. 出版社 校倉書房	5. 総ページ数 322
3. 書名 江戸の神社と都市社会	

1. 著者名 吉田伸之	4. 発行年 2015年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 252
3. 書名 都市-江戸に生きる-	

1. 著者名 吉田伸之	4. 発行年 2015年
2. 出版社 校倉書房	5. 総ページ数 450
3. 書名 地域史の方法と実践	

1. 著者名 樋口貴彦	4. 発行年 2016年
2. 出版社 一般社団法人日本板倉建築協会	5. 総ページ数 80(44-47)
3. 書名 いたくら	



1. 著者名 吉田ゆり子	4. 発行年 2014年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 325
3. 書名 画像史料論	

1. 著者名 吉田伸之	4. 発行年 2014年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 708
3. 書名 両替商 銭屋佐兵衛	

1. 著者名 吉田伸之・竹ノ内雅人	4. 発行年 2014年
2. 出版社 飯田市歴史研究所	5. 総ページ数 74
3. 書名 『描かれた上飯田』	

1. 著者名 菱田忠義・吉田ゆり子編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 1129
3. 書名 湊十分所史料集	

1. 著者名 吉田ゆり子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京外国語大学	5. 総ページ数 510
3. 書名 宮下本 熊谷家伝記	

1. 著者名 吉田伸之編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 331
3. 書名 シリーズ三都 江戸巻	

1. 著者名 羽田真也共著(塚田孝編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 360
3. 書名 シリーズ三都 大坂巻	

1. 著者名 吉田ゆり子共著(杉森哲也編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 358
3. 書名 シリーズ 三都 京都巻	

1. 著者名 吉田ゆり子共著(高埜利彦編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 近世史講義	

1. 著者名 吉田ゆり子共著(西宮神社文化研究所編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 神戸新聞総合出版センター	5. 総ページ数 325
3. 書名 えびすさま よもやま史話	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	多和田 雅保  (Tawada Masayasu)  (10528392)	横浜国立大学・教育学部・教授    (12701)	
研究分担者	吉田 伸之  (Yoshida Nobuyuki)  (40092374)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・名誉教授    (12601)	
研究分担者	羽田 真也  (Hada Shinya)  (40757837)	飯田市歴史研究所・研究部・研究員    (83603)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	樋口 貴彦 (Higuchi Takahiko) (50568631)	東洋大学・ライフデザイン学部・助教  (32663)	
研究分担者	千葉 拓真 (Chiba Takuma) (60719483)	飯田市歴史研究所・研究部・研究員  (83603)	
研究分担者	竹ノ内 雅人 (Takenouchi Masato) (80646258)	東京大学・人文社会系研究科・助教  (12601)	
研究分担者	伊坪 達郎 (Itsubo Tatsurou) (90646283)	飯田市歴史研究所・研究部・研究員  (83603)	
研究協力者	前澤 健 (Maezawa Ken)		
研究協力者	齋藤 利江 (Saitou Toshie)		